



「靖国」の試写会で、上映を待つ国会議員ら＝12日夜、東京・京橋で、関口聡撮影

映画「靖国」

議員試写に80人

提案の議員「偏っている」

靖国神社を題材にした中国人監督のドキュメンタリー映画「靖国」の国会議員向け試写会が12日夜、都内で開かれ、約80人の議員らが出席した。試写を求めていた自民党の稲田朋美衆院議員は「偏ったメッセージがある」と話し、映画に政府出資法から助成金が出されたことの是非を、さらに検証し続ける姿勢を示した。

映画「靖国」 日本在住の中国人監督、李縷（リ・イン）さんが10年にわたって撮影し、昨年完成。戦没遺族などが集う終戦記念日の境内の光景を延々と映し続けることもに、ご神体の刀剣を作る刀匠も題材に取り上げた。ベルリン国際映画祭にも正式招待された。

主催した配給・宣伝会社「アルゴ・ピクチャーズ」（東京）によると、自民、民主、公明、社民の各党派の議員40人と、代理出席で自民、民主、共産、国民新党秘書約40人が出席。計約80人のうち、自民が50人以上を占めた。入り口には約40人の報道陣が構え、私服警官による警備態勢が敷かれた。2時間の試写終了後、報道陣に囲まれた稲田議員は「助成金にふさわしい政治的に中立な作品かどうかという一点で見るとしたうえで、「靖国神社が、侵略戦争に国民を駆り立てる装置だったというイデオロギー的メッセージを感じた」と語った。

ただ、試写を見た自民党の島村宜伸衆院議員は「一貫したストーリーを見せるというよりは、様々な場面をつなげた映画。自虐的な歴史観に顧客を無理やり引っ張り込むものではなかった」と話した。また、民主党の横光克彦衆院議員は「戦争の悲惨さを考えさせる映画だが、むしろ靖国賛美6割、批判4割という印象を受けた」と話した。

稲田議員は製作会社が提出していた助成の申請書類一式も文化庁を通じて取り寄せており、「助成金の要綱なども確認し、適切だったかどうかまた検討したい」としている。13日午前には、自民党本部で文化庁の職員と交え、伝統と創造の会と平和靖国議連との合同で「勉強会」を開く。

ただ、試写を見た自民党の島村宜伸衆院議員は「一貫したストーリーを見せるというよりは、様々な場面をつなげた映画。自虐的な歴史観に顧客を無理やり引っ張り込むものではなかった」と話した。また、民主党の横光克彦衆院議員は「戦争の悲惨さを考えさせる映画だが、むしろ靖国賛美6割、批判4割という印象を受けた」と話した。

稲田議員は製作会社が提出していた助成の申請書類一式も文化庁を通じて取り寄せており、「助成金の要綱なども確認し、適切だったかどうかまた検討したい」としている。13日午前には、自民党本部で文化庁の職員と交え、伝統と創造の会と平和靖国議連との合同で「勉強会」を開く。

ただ、試写を見た自民党の島村宜伸衆院議員は「一貫したストーリーを見せるというよりは、様々な場面をつなげた映画。自虐的な歴史観に顧客を無理やり引っ張り込むものではなかった」と話した。また、民主党の横光克彦衆院議員は「戦争の悲惨さを考えさせる映画だが、むしろ靖国賛美6割、批判4割という印象を受けた」と話した。

稲田議員は製作会社が提出していた助成の申請書類一式も文化庁を通じて取り寄せており、「助成金の要綱なども確認し、適切だったかどうかまた検討したい」としている。13日午前には、自民党本部で文化庁の職員と交え、伝統と創造の会と平和靖国議連との合同で「勉強会」を開く。

ただ、試写を見た自民党の島村宜伸衆院議員は「一貫したストーリーを見せるというよりは、様々な場面をつなげた映画。自虐的な歴史観に顧客を無理やり引っ張り込むものではなかった」と話した。また、民主党の横光克彦衆院議員は「戦争の悲惨さを考えさせる映画だが、むしろ靖国賛美6割、批判4割という印象を受けた」と話した。

稲田議員は製作会社が提出していた助成の申請書類一式も文化庁を通じて取り寄せており、「助成金の要綱なども確認し、適切だったかどうかまた検討したい」としている。13日午前には、自民党本部で文化庁の職員と交え、伝統と創造の会と平和靖国議連との合同で「勉強会」を開く。